



R 326

様式第3号(第8条関係)

事業者達成状況報告書

令和4年 6月 9日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 鳥取県鳥取市商栄町251番地8

氏名 株式会社 三洋商事
代表取締役 玉川 政一
(法人にあつては、名簿及び代表者の氏名)

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第5項(第9条第3項)の規定により次のとおり提出します。

住所(主たる事業所の所在地)	鳥取県鳥取市商栄町251番地8						
氏名(名称及び代表者の氏名)	株式会社 三洋商事 代表取締役 玉川 政一						
主たる業種	80 建築業						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者						
計画期間	令和2年度 ~ 令和4年度						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (令和元)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (令和4)年度 (二酸化炭素換算)	増減率	報告年度(実績) (令和3)年度 (二酸化炭素換算)	増減率	
	排出量(1)	2,080.4 t	2,018.0 t	△ 3.0 %	2,039.9 t	△ 1.9 %	
	実績に対する自己評価						
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率	報告年度(実績)	増減率
	パチンコホール	延床面積	0.1509 t-CO2/m ²	0.1463 t-CO2/m ²	△ 3.0 %	0.1479 t-CO2/m ²	△ 1.9 %
					%		%
					%		%
	実績に対する自己評価 電気使用量は前年より削減したが、二酸化炭素排出係数が上がったため、排出量は前年比増加となった。引き続き節電に努めることで目標値クリアを目指す。						
寄与的取組	取組区分	目標年度(計画)		報告年度(実績)			
		実数値	二酸化炭素換算の削減量	実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(発電量) kWh	t	(発電量) kWh	t		
		(熱供給量) GJ	t	(熱供給量) GJ	t		
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)	t	-	t		
	森林保全による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	-	t	-	t		
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)	t	(購入量) GJ	t		
削減量等合計(2)	0 t		t				
差引排出量(1)-(2)	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)		
	2,080.4 t	2,018.0 t	△ 3.0 %	2,039.9 t	△ 1.9 %		
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・BEMS、LED照明、高効率空調機などの各種省エネ機器を順次導入していき、エネルギー使用の削減を図る。 ・電気使用量を各ホール毎にまとめた一覧表を毎月回覧し、使用量増加店については個別に聞き取り、助言を行い節電に努めている。 ・電力会社の受電日誌をごまめに確認し、異常な電気使用があった場合にいち早く対応して対策している。 						
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動							
特記事項	延床面積 13,791m ²						

注1 該当する□には、レ印を記入してください。
 2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定換算量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。
 3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。
 4 主たる業種には、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。
 5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
 6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(生産数量、延床面積、走行距離等)を記入してください。
 7 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比や省エネ設備開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用などを記入してください。